Campus Today

松本歯科大学
発行所　学校法人　松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎（0263）52−3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

卒業目指してこれまで学んだ知識をより確実なものにするため自主学習に励む第6学年生有志

第6学年の有志が勉強会
卒業めざしてさらなる実力向上を

歯科医師国家試験に向けて8月から、本年度も第6学年有志による自主勉強会が始まった。学生たちは毎週月曜日午後5時30分、創立30年記念棟2階のカフェテリアに集合して、三つのグループに分かれて勉強に打ち込んでいる。

学生有志による勉強会は、学年全体の実力向上を目指して40期生が始めたもので、中断を経て、44期生が復活させて以来毎年続く。

本年度は、学年委員長の野﨑優君と奥田葉月さん、横川勝護君の3人がまとめ役となってスタートさせた。各回の勉強する内容は、参加者の疑問や質問も参考にしながら、3人がそれぞれ工夫を凝らしながら準備している。どのグループの学生も、教科書を手元に置いて確認したり、理解した内容を自分の言葉で周囲に確認したりしながら、熱心に参加している。野﨑君は「勉強会の準備に時間はかかるが、自分がより深く理解することにつながる」と受け止めていて、「歯科医師国家試験への合格は、より厳しくなると思うが一人でも多く合格できることを目標に、できる限り長く続けていきたい」と話している。

第6学年は、卒業試験に続いて1月末には第120回歯科医師国家試験と、多忙な時期を迎えていくこととなる。

歯学体で剣道部などが大健闘
剣道部女子（3人）団体戦準優勝
第5学年・橋本ひかるさん　稲田杏璃さん
第1学年・駒井ひかりさん

第58回全日本歯科学生総合体育大会（全日本歯科学生体育連盟主催、スポーツ庁後援、九州大学歯学部事務主管）の夏期部門が7月31日（金）から8月11日（火・祝）まで、競技部門ごとに国内各地で開催された。本学は剣道で、橋本ひかるさん（第5学年）と稲田杏璃さん（第1学年）、駒井ひかりさん（同）の3人でつくる女子団体が準優勝と躍進した。また、毎年複数の学生が上位入賞を果たしている水泳も、共に表彰台こそ逃したものの女子100メートルバタフライで佐藤実夢さん（第4学年）が4位、男子100メートル自由形で古俣海翔君（第3学年）が4位と上位入賞を果たした。このほかの部活もこれまでの練習の成果を発揮し、善戦した。

剣道は、東京都の江戸川区総合体育館で8月1日（土）、2日（日）の2日間にわたって熱戦が繰り広げられた。女子団体は1チーム3人で、本学は先鋒の駒井さん、次鋒の稲田さん、大将の橋本さんの順に相手チームと対戦、気迫のこもった試合運びで勝ち上がった。本学の準優勝は、大会事務局に女子団体の記録が残る第21回大会（1989年）以降、最高順位。顧問で衛生学院長の金銅英二教授は「本学体育館での稽古以外にも地元の道場などに出向いて稽古を積んだ修練の成果」と健闘をたたえた。剣道は今年も、全日本歯科医師剣道連盟大会（OB戦）が同時開催され、個人戦五・六段の部で、26期生の上村裕希先生（熊本市）が3位に入賞した。

水泳は、横浜市の横浜国際プールで8月4日（水）から6日（木）まで競技が行われた。古俣君が男子200メートル個人メドレーでも5位入賞、佐藤さんも女子50メートルバタフライでも7位に入賞した。このほか、男子100メートル平泳ぎで小坂田賢悟君（第4学年）が6位、男子4×200メートルフリーリレーで、丸山颯野君（第4学年）、小坂田賢悟君、野﨑優君（第6学年）、古俣海翔君の4人のチームが力強い泳ぎをつないで7位に入り、女子50メートル自由形で板橋葵彩さん（第1学年）が8位となった。水泳部は、日頃の練習で主に使用している学内の競泳プールが本年度は閉鎖され、思うように練習できない状況だったが健闘した。このほか、卓球女子個人の部ではオープン参加の塚本真央さん（第1学年）が優勝した。

女子団体戦で準優勝した剣道部
前列右から顧問・金銅教授、稲田さん、橋本さん、駒井さん

個人戦で上位入賞を果たした水泳部

講師に9期生・安藤秀明先生を迎え病院セミナー
「39年間の臨床経験から学ぶ顎関節症の診査と治療」

8月6日（木）、本館601教室で2026年度第3回病院セミナーが開催され、講師に本学9期生の安藤秀明先生を迎え、「顎関節症39年間の臨床の積み重ね」と題した学習会が行われた。長年の診療経験に基づき、日常診療で使用している問診票を用いながら診査から治療、さらに治療終了の判断に至るまでの手順について講演いただいた。

講演では顎関節症の原因として、ブラキシズムやクレンチングなどの悪習癖、不良補綴物、早期接触、外力などが挙げられた。また、顎関節痛、開口障害、クリックといった顎関節症状だけでなく、歯の咬耗や破折、知覚過敏、咀嚼筋痛、頭痛、肩こりなど、多様な症状を総合的に捉えることの重要性が示された。診査においては、咀嚼筋の触診、咬合状態、開口量、歯の咬耗などを確認するとともに、腕や脚のしびれ、腰痛などの全身症状についても丁寧に聴取する必要があると説明された。治療では、上顎全顎を覆うハードスプリントを用い、咬合圧の軽減や咀嚼筋のリラックスを図りながら、患者ごとの症状に応じて調整と観察を行う方法が紹介された。治療中は、症状の変化を記録し、咀嚼筋の緊張、スプリントの咬耗痕、睡眠時間、生活習慣などを継続的に評価することが重要であると強調された。さらに、顎関節治療によって、顎関節症状だけでなく、頭痛や肩こり、顔面痛などが軽減し、患者さんの日常生活に良い変化がみられた経験が紹介された。

39年間にわたり、一人ひとりの訴えに向き合い、症状の変化を丁寧に観察してきた臨床の積み重ねは、参加した若手歯科医師にとって、診断や治療技術だけでなく、患者を総合的に診る姿勢を学ぶ貴重な機会となった。

（地域連携歯科学講座　教授　今井美恵）

講演する安藤先生

信州まつもと空港に本学電飾看板を新設

本学は今夏から、信州まつもと空港ターミナルビルの吹き抜けエリアで、本学をPRする電飾看板の掲出を始めた。空港は、本学から車で15分ほどと身近に立地する県内唯一の空の玄関口で、各運航路線とも安定的に高い搭乗率も維持していることから、本学をさらに多くの方に知ってもらえる場所ととらえ実施した。

デザインは、穂高連峰をバックにした本館の画像と、AIが参入する時代においても歯科医師の仕事は人間に因るところが大きいとして「AI時代でもあなたを診るのは歯科医師です」とのコピーを組み合わせている。

空港を利用する地元の人たちからは「目を引くデザインでいい」などといった声も聞かれ、大学の知名度や好感度の向上につながることが期待される。

空港ターミナルのロビーに設置された本学看板（2階壁面右端）

消費減税は 高市内閣にとって「天王山」だ

内閣官房参与
松本歯科大学理事（特命）
飯島 勲

今月号では『プレジデント』9月4日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、「消費減税は 高市内閣にとっての「天王山」だ」の記事を要約して紹介します。

いま、特別国会が閉幕したタイミングでこの原稿を書いている。高市早苗首相は記者会見で、改正皇室典範や国家情報会議設置法など、政府が提出した64の法案がすべて成立したと成果を報告した。副首都法や国旗損壊処罰法などは、ニュースでも多く報じられているのでご存知の方も多いだろう。しかし、連立政権合意の条件となっていた衆院定数削減法案は、秋の臨時国会に先送りになってしまった。

さらに、国民にとっては一番の関心事ともいえる食料品の消費税減税は、国会ではなく、超党派の「社会保障国民会議」で議論が進められてきたが、こちらも与野党の意見が対立したまま合意には至らなかった。

私は、以前からこの消費税に関する議論の進め方には首をかしげてきた。私は消費税を必要な税金だと考えており、社会保障を目的とした税である以上、安易に税率を下げるべきではないと考えている。そもそも消費税とは何か。これは、社会福祉や医療といった社会保障の政策に活用するために生まれた税である。つまり、税率を下げて税収が減るということは、そのまま社会保障に回る金が減るということにほかならない。医療も、介護も、年金も、支えている土台が細るのである。

そうなれば「その減った分をどこから持ってくるのか」「土台が細るのはやむをえないのか」という議論が出てこなければおかしい。ところが、そういうことを誰も言わない。ただ「消費税を減らせ」「いや、給付にしろ」という声だけが聞こえてくる。消費税が何を支えているのかという一番大事なところを誰も語らないまま、一見ありがたそうな話ばかりが飛び交っている。

もっと言えば、減税すれば社会保障の規模そのものが縮小するのだ。医療や介護の現場に回る金が減れば、そこで働く人の待遇にも響く。減税で恩恵を受けるはずの国民が社会保障サービスでは不便を被るし、働く人の生活は苦しくなるのだ。「社会保障国民会議」という名前をつけているのだから、そういう本質的な課題に踏み込んでもらいたかった。

社会保障国民会議をとりまとめる高市総理

国の当初予算というものは、全体のパイが決まっている。どこかを増やせば、どこかを削るしかない。社会保障を守り、財政も保つという都合のいい話は、現実には存在しないのである。円安や原材料費の高騰が続く中で、消費税率を下げても実際の物価は下がらない可能性が大きいという指摘もある。それ自体はもっともだ。だからこそ、なぜ自分たちは減税を掲げて選挙を戦ったのかという説明責任を果たしてもらいたい。

率直に言って、野党の姿勢は感心しない。財源や根拠を示さないまま、「減税しろ、給付しろ」と言うのは、言いっぱなしで、無責任である。政権がそういう声にいちいち振り回される必要はないと思う。

では、高市内閣はどう構えるべきか。私は、もっと強気に出ていいと思っている。

誤解のないように言い添えるが、これは相手の悪口を言えばいい話ではない。選挙でも同じだが、対立する相手を口汚く叩いたところで、自分の評価が上がるわけではない。やるべきは、相手の案より具体的で、優れた案を示すことだ。中身で上回れば、相手の案は自然に色あせる。それが正しい戦い方である。

近ごろは「炎上」という言葉がポピュラーになったが、政治家に限らず、世の中全体に批判されることを恐れる空気が広がっているように感じる。何をやろうと、賛成する人がいれば、反対する人もいる。ならば、腹を決めて、言うべきことは言う。これができれば、支持は落ちるどころか、むしろ上がってくるはずだ。

私事になるが、来週から十数年ぶりに台湾へ行く。政府の仕事ではなく、個人的な用件だ。台湾の医療資格制度についての話し合いである。翌月にはモンゴルへも足を運ぶ予定だ。八十になっても、こうして呼んでくれる場所があるのは、ありがたいことだと思っている。

第1学年「環境学・国際文化学」講義
矢ヶ﨑一浩先生が
海洋環境の仕組みと未知の世界を紹介

第1学年の教養教育科目「環境学・国際文化学」が8月17日（月）、キャンパスイン101教室で行われ、海洋学を専門とし、公益財団法人日本財団で次世代に豊かな海を引き継ぐ国際海洋事業に取り組んでいる本学非常勤講師の矢ヶ﨑一浩先生が、海洋環境システムや海洋環境の仕組みなどについて講義した。

矢ヶ﨑先生は、6歳から大学卒業まで英国に暮らし、15歳ごろ、科学雑誌で海洋学や熱水鉱床、またそこに生きる海洋生物について知ったことをきっかけに海洋世界の探求を始めたという。大学卒業後は、米国のウッズホール海洋生物学研究所や日本の海洋研究開発機構（JAMSTEC）、東京大学大学院などでも研究を続け、その知見を生かし活躍されている。

地球と海洋の関わりから深海生物に至るまで幅広く講義する矢ヶ﨑先生

講義では、地球環境の保全に重要な大気、海洋、陸地、生物圏の4つのバランスを、海洋を中心に詳しく説明。海洋の深層循環は「熱塩循環」と呼ばれ、海水温と塩分の密度差で動き、現在の気候では表層の海水が北大西洋のグリーンランド沖と南極大陸の大陸棚周辺で冷やされ重くなって底層まで沈んで広がり、底層を移動する間にゆっくりと上昇して表層に戻るという約1千年スケールの循環をしていることも紹介した。また、大気圏のCO_2濃度が上がることで海水に溶け込むCO_2も増えて海の酸性化が進むとともに、サンゴの白化現象などを招き、問題になっていることにも触れた。

「海はまだ海底の20％しか地図化されていないし、海全体の6％しか探査されていない」「光の届かない深海の海洋生物はまだ90％以上が分類されていない」などと話し、新型コロナやがんの治療薬に活用されているホヤや、モルヒネよりはるかに強い鎮痛作用が認められるイモガイなどを例に、世界の製薬会社が莫大な予算を海洋研究に投じている実態も紹介。学生たちは最後まで熱心に聴講した。

外国ルーツのあるこどもたちが
生き生きと暮らせる地域社会を目指して！
第37回 長野県小児保健研究会

8月22日（土）に本学図書館にて第37回長野県小児保健研究会（会長・古庄知己信州大学医学部教授）が開催された。

今年度はテーマを『外国ルーツのあるこどもたちが生き生きと暮らせる地域社会を目指して！』として、基調講演では多文化LIFE代表の入倉眞佐子先生が『外国につながるこどもたちを地域で大切に支えよう』のテーマで県立夜間定時制高校国語科常勤講師の立場から、外国ルーツの生徒たちの現状を教育現場での問題、民間団体として、多言語での「進学ガイダンス」「入学書類の記入支援」「学習支援」など行政が実施しない事業を展開していることなどを説明された。なお、講演後は教え子の日本福祉大学1年・多文化LIFEの藤沢カウエ勇志さんが『私たち外国人に必要な支援』について報告された。

左から講演された佐藤先生、藤沢さん、入倉先生と古庄会長

特別講演ではNPO法人中信多文化共生ネットワーク理事長・信州大学グローバル化推進センター教授の佐藤友則先生が『外国ルーツの子に関する全国および中信地域の状況』について報告された。講演ではオーストラリアの戦略的「教育投資」を紹介され、外国ルーツの子どもへの英語指導と同時に、親の母語の学習を強く勧めていることと、親の母国との橋渡し人材育成がなされていることを紹介された。我が国では学習日本語という巨大な壁があり、アイデンティティに関して「これでいいんだ」と自認できるだけでは不十分で、周囲も「仲間だよ。一緒に生きていいんだよ」と認めることが重要であり、日本の子どもを主対象にした「小中学校からの多文化共生の授業」が必須であると述べられた。

長野県小児保健研究会は、次年度も本学で開催予定ですので興味のある方はご参加ください。

（小児歯科学講座　教授　大須賀直人）

創立者の「視点」

大学誌編集主幹
特任教授
笠原 浩

痛みと歯科医療⑪

国際疼痛学会（IASP）は2020年に痛みの定義を改訂して「痛みとは、実際の組織損傷が起こり得る状態に付随する、あるいはそれに似た、感覚かつ情動の不快な体験」としています。痛みについての研究が発展した結果、こんなに複雑な定義が必要になっているのですね。

「情動」という側面を別とすれば、からだに物理的・化学的な有害刺激が加わったことを脳に知らせて、回避行動を取らせる重要な感覚ということです。

先天性無痛症の患者さんに、口唇や舌の咬傷、火傷など生傷が絶えない状況を見れば、痛覚がとても大事なことがよく分かります。

とはいえ、病気になって治療を受けるときの処置や手術に伴う痛みとなると、これは無用であるばかりか、治療を妨げる邪魔ものでしかないですね。

ところで、「痛みの二面性」をご存知でしょうか。

痛覚の受容器である末梢神経の自由終末から知覚神経や自律神経を介して中枢神経に送られるインパルス（電気的興奮波）は、加えられた痛み刺激の大きさに比例したものとなります。これが「痛知覚」で、ほとんど個人差はありません。

しかし、それが中枢神経によってどのように総合され解釈されるかによって、それに対する反応「痛反応」は、個人差が大きいばかりか、同一人物でも時と場合によって大きく変動することが知られています。火事場などでは怪我をしても気が付かない…といった現象です。つまり、痛みの感じ方は、大きく変動することがあるということで、医学的には痛覚閾値の変動と表現します。

「痛反応」＝痛みの感受性に影響を与える因子には、さまざまなものがあります。年齢的には、小児や若者よりも老人のほうが我慢強く、性別では、男性は女性よりも痛みに耐えるとされています。でも、お産の痛みを考えると、後者は少し怪しい気がしますね。民族性では、ネイティブアメリカンの我慢強さは有名で、逆にラテン系の民族は少しの痛みでも大騒ぎしやすいとされています。日本人はどうでしょうか。

臨床医学の分野では、情緒的状態、とりわけ恐怖と不安の存在が注目されています。研究者の示すところでは、情緒不安定な人とそうではない人とでは、痛知覚に大差はないが、痛反応はひどく亢進しているとのことです。恐怖感や不安が存在すると、痛覚閾値が大幅に低下する、つまり、痛みを感じやすくなることも実証されています。

歯科診療の現場においても、怖がっている患者さんがちょっとした刺激にも大げさに反応して、治療をやりにくかった経験が少なくはないはずです。

そこで、実際に診療を開始する前の段階で、患者さんの痛覚閾値を引き上げておくことが必要になります。具体的には、歯科診療についての不安や恐怖感を払拭して、情緒を安定させておくことです。

どうしたら、患者さんを安心させることができるのか？そのカギはコミュニケーションの確立にあるのです。

歯学部一日体験入学を開催し大盛況
高校生ら参加者が大学や歯科医師について理解深める

本年度7回目となる歯学部一日体験入学は8月9日（日）、国内外から24組、64人を迎えて開催した。本年度最多の参加者数で、参加者が一堂に会する創立30年記念棟大会議室には座席を増設したほか、プログラムによっては参加者を複数の班に分けて案内するなどして運営。参加した高校生たちの多くが目を輝かせ、本学や歯科医師の仕事に理解を深めていた。

在学生から本学のキャンパスライフや特徴などについて説明を聴く参加者たち

例年、高校が夏休みとなる7、8月の開催日は他の時期と比べて参加者が増えるが、この日は際立っていた。

参加者は、30年記念棟で、笠原　浩特任教授の講話、続いて歯科保存学講座の亀山敦史教授の模擬講義、在学生による大学概要の説明を聴いたあと、最大4班に分かれて、模擬実習を受けたり、在学生が案内するキャンパスツアーで構内を巡ったりした。

亀山教授はこの日、模擬実習も指導。参加者たちは白衣を着用し、真剣な表情で説明を聞き、講座スタッフの先生たちのサポートも受けながら、歯学部学生のように器具や歯科材料を使ってむし歯の修復を体験していた。模擬実習で使った人工歯は終了後、キーホルダーにして参加者にプレゼントされた。

一日体験入学を振り返り、参加者からは「実際に大学に来てみていろいろなことを感じられてよかった」「実習で体験したことを人に対して行う歯科医師はすごいと思った」などの感想が聞かれた。

一日体験入学の次回は9月6日（日）で、来年3月14日（日）まで計6回を行う予定となっている。

第3学年・石須愛毬（えまり）さん
「日独スポーツ青少年同時交流派遣事業」に参加
たくさんの学びと楽しさを会得して

歯学部第3学年の石須愛毬さんは、1974年から続く「日独スポーツ青少年同時交流派遣事業」（日本スポーツ協会主催スポーツ少年団など主催）で7月29日（水）から8月12日（水）まで、日本団のメンバーとしてドイツに派遣された。石須さんに活動を通して感じたことなどを報告してもらう。

◇◇　◇◇　◇◇

私は、三重県の津西修道館スポーツ少年団で小学1年生から剣道を続けていた関係で今夏、日本団（総勢100人）の団員に選ばれ、全11グループ中、東海地方グループ（団員6人、引率指導者1人）の一員として、ミュンヘンやフランクフルトなど、大小合わせて10カ所を巡った。今回の交流テーマは「ジュニア・ユーススポーツの未来をデザインしよう」で、各地でスポーツに携わる青少年たちとディスカッションを行い、さまざまな交流をした。

交流したドイツの方々や東海グループの仲間と筆者（前列右から5番目）

ドイツの街を散策し、歴史や文化に直接触れ、初めての経験に心躍らせながら見聞を広めることができた。また、同世代でも過ごしてきた環境が異なるだけで別の観点から物事を捉えていることや、自らの言葉でコミュニケーションをとる難しさや伝わる喜びを知ることができた。当初はドイツの方々とのコミュニケーションに不安を抱えていたが、交流を重ねるごとに言語の違いは交流の妨げにならず、重要なのは自ら積極的に交流を図ることだと感じた。

今回の交流で今まで私自身が培ってきた知識や経験が生かされた場面が多くあり、過去に得たものが今につながるということに気づくことができた。これらの気づきのおかげで積極的にコミュニケーションをとって全力で学び、全力で楽しみ「今」を大事にすることができた。見たもの聞いたもの感じたもの全てがかけがえのない財産となり、たくさんの学びと楽しさを与えられた。

本交流を通して得たものは、必ず未来の私自身を後押ししてくれると信じている。歯科医師を目指して学ぶことも含め、どんなことでも目の前にあることには積極的に取り組み、「今」という瞬間を大切にしていきたいと思う。

（第3学年　石須愛毬）

夏の夜空を彩る
ファンタスティック・シャイン
第78回 諏訪湖祭湖上花火大会

国内屈指の花火大会で知られる「第78回諏訪湖祭湖上花火大会」が8月15日（土）の夜、諏訪市の諏訪湖畔で開かれた。見物客が湖畔を埋め尽くす中、打ち上げ花火や趣向を凝らしたスターマインなど総数約4万発の花火が豪華に夏の夜空を彩った。本学をはじめとする協賛団体等が提供した第2部最初のプログラム「ミュージックグラデーション ファンタスティック・シャイン」は、「未来を拓く！夢と希望をみなさんと共に 松本歯科大学」のアナウンスとともに、打ち上げが始まり、会場から一段と大きな拍手や歓声が沸いた。約3時間におよぶ大会は、フィナーレの「水上大スターマイン」で最高潮に達し、締めくくられた。

約4分間にわたるファンタスティック・シャインの大輪が夜空に開く

病院だより vol.77
管理栄養士
日々の健康のために 食事は3食よく噛んで ゆっくり食べよう‼

食後血糖値の急上昇を抑える食事のとり方として「ベジファースト（野菜から食べる）」が有名ですが、十分な効果を得るためには野菜を先に食べること以外にも気をつけたいポイントがあることをご存じでしょうか。

野菜の中に多く含まれている食物繊維には、食後血糖値の急上昇を抑える効果があります。これは、胃や腸に食べ物が留まる時間を延ばすことで、糖質などの栄養素の吸収を緩やかにしてくれるためです。そのため、野菜を食べてすぐに主食を食べるのではなく、①よく噛んでゆっくり食べる、②野菜を先に食べるだけでなく、糖質を多く含む主食は最後に食べる、という2点を意識することで、より高い効果が期待できます。

また、十分な効果を得るには野菜の「量」自体も確保する必要があります。よくいらっしゃるのが、「大盛りのサラダを夕食に1回食べる」といったように、1回の食事だけで野菜を摂ろうとされる方です。この食べ方では夕食での効果は期待できますが、他の食事では同様の効果が得られません。加えて、同じものを一度に大量に食べる方法は飽きやすく、継続が難しくなりやすいというデメリットもあります。

人間ドック受診後のフレンチレストラン食

実は、食物繊維には血糖値を抑えるだけでなく、さまざまな生活習慣病のリスクを下げる働きもあります。健康維持のためには1日25g以上の食物繊維が必要とされていますが、近年の国民健康・栄養調査によると、日本人の平均摂取量は目標を大きく下回っているのが現状です。

1日に必要な野菜を摂取するためには、やはり1食ですべて摂るのではなく、3食に分けて食べることが効果も含めて推奨されます。1食当たりの野菜の目安量は、生野菜なら両手1杯分、加熱調理で量が減ったものは片手山盛り1杯分程度となります。生野菜だけで必要量を摂ろうとすると大変ですので、サラダだけでなく、メイン料理の付け合わせや汁物の具を多くするなど、食事全体に野菜をちりばめて食べることや、加熱調理の併用がおすすめです。

当院の人間ドック受診後にお召し上がりいただくフレンチレストランのお食事も野菜が豊富でメインの量も適正ですので、ぜひ普段の食事量の参考にしてみてください。この写真にはアイスもありますが、このくらいの少量をたまに食べる程度にしましょう。

今回のお話は、血糖値をはじめとした糖代謝にまだ問題のない方向けの内容となります。すでに糖尿病の診断がついている方は、かかりつけ医にご相談の上、適切な食事療法に取り組みましょう。

最後に、当院の健診センターでは、特定健診の結果に基づき、生活習慣の改善が必要な方を対象とした「特定保健指導」も行っています。健診や保健指導を上手に活用しながら、日々の健康づくりに取り組んでいきましょう。

（病院事務室　管理栄養士　大澤百合恵）

県公衆衛生専門学校生
本学病院で臨床実習
～現場に立ち実践的に学ぶ～

伊那市の長野県公衆衛生専門学校の2年生8人は8月17日（月）から28日（金）まで、本年度第Ⅰ期の臨床実習のため本学の大学病院に登院し、2グループに分かれ補綴科と小児歯科で、それぞれ5日間ずつ実習を行った。実際に歯科診療の現場に立ち、病院歯科衛生士の指導のもとで、補助業務などに携わりながらより実践的に学びを深めた。

実習生の新井優花さんは「初めて見る医療機器もあって学ぶことが多い」と話し積極的に参加することを心掛けたという。第Ⅰ期の臨床実習を振り返り、西村文那さんは「小児歯科でチェアタイムを短くする手際の良さに驚いた」、吉川奈那さんは「補綴科で患者さんに合わせたコミュニケーションがすごいと思った」とそれぞれ感想を話していた。

臨床実習は第Ⅱ期もあり、9月24日（木）から10月7日（水）まで地域連携歯科と矯正歯科で、それぞれ5日間行われる。

小児歯科で臨床実習に取り組む公衆衛生専門学校生

Alumni News
松本歯科大学校友会

三重県支部　総会・学術集会を開催
本学衛生学院長の金銅英二教授が学術講演
「歯科臨床と脳 ～痛みと向き合って～」

三重県の津歯科医師会館会議室にて7月5日（日）、松本歯科大学校友会三重県支部総会・学術集会を開催しました。

学術講演会は、支部長の佐南清作先生（8期生）の開会の辞で幕が上がりました。

今回は、本学衛生学院長の金銅英二先生をお招きし「歯科臨床と脳～痛みと向き合って～」の演題の下、学術講演となりました。司会進行は寺本祐二先生（29期生）が担当しました。

講演では痛覚変調性疼痛患者さんの症例提示がなされ、治療開始から治癒に至るまでの経過や投薬治療の注意点などに加えて、慢性疼痛に苦しむ患者さんの対応についても詳しく聴くことができました。

金銅教授（前列左から4人目）を囲み記念撮影する支部会員

会場からは根管充填後疼痛に対する対処法や認知症患者への対応、医科・歯科連携の際の注意点、など多くの質問が寄せられ活発な討論が展開されました。

また、母校（歯学部・衛生学院）の現況についてのお話もして頂きました。三重県出身の歯学部学生も7人在籍しており、みな熱心に勉学に励んでいると聞き、次世代の三重県支部会員の中心となる人材も存在することに胸が躍りました。今後は、在学生との交流にも力を入れたいとの話でも盛り上がりました。

講演会後、参加者全員で記念撮影を行い、会場を津駅前のホテルグリーンパーク津に移し、佐南先生の円滑な進行の下で総会が持たれました。

総会後の懇親会は、亀山歯科医師会会長の秋本和宣先生（12期生）の音頭で乾杯し、美酒と美味しい料理そして、母校での懐かしい話や校友の活躍の話などで盛り上がりました。あっという間に懇親会もお開きとなり、皆で金銅先生を津市駅で見送り、次回は新年会で盛り上がろう！と解散になりました。

三重県支部は地域性（交通事情など）もあり会員が一堂に会するのが難しい課題がありますが、総会・学術集会・懇親会を盛り上げて参加者を増やしながら更なる団結を目指して参りたいと思います。

（三重県支部　24期生　北川郁子）

京都府支部　支部総会を開き各議案を審議
新体制のもと「鴨の会」のさらなる発展を

7月11日（土）、京都市の京都セントアンドリュース教会において、令和7年度松本歯科大学校友会京都府支部「鴨の会」通常総会を開催しました。

会員72人のうち20人が出席、27人から委任状が提出され、総会は成立しました。守安摂子副会長（4期生）の開会の辞に続き、田中豊彦会長（6期生）があいさつを行い、栂尾正弘先生（12期生）を議長に選出して議事に入りました。

田中会長（前列左から3人目）のもと新体制の鴨の会

会務報告および本部関係の報告に続き、第1号議案「令和8年度事業計画方針」、第2号議案「令和7年度会計決算」、会計監査報告、第3号議案「令和8年度会計予算」について審議が行われ、提出された各議案はすべて承認されました。最後に、大石泰孝先生（8期生）の閉会の辞をもって総会は滞りなく終了しました。

また、今年度より、30年以上にわたり支部会長を務められた武田　淳先生（4期生）から、田中豊彦先生（6期生）へ会長職が引き継がれ、新体制がスタートしました。長年にわたり京都府支部の発展に尽力された武田先生に感謝するとともに、新体制への期待が寄せられました。

総会終了後には懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めるとともに、近況報告や情報交換を通じて和やかなひとときを過ごしました。世代を超えた交流も活発に行われ、有意義な時間となりました。

今後も会員相互の交流を大切にしながら、京都府支部「鴨の会」のさらなる発展に努めてまいります。

（京都府支部　29期生　新田陽平）

校友会伝言板

事務局より

新潟県支部から本学への寄附（8月）について

◇寄附金額・10万円

「この度、支部役員会の賛同を得て、ささやかではありますが寄付させて頂きました。微力ではございますが、母校の更なる発展と学生の皆さんの未来を心より応援しております」

（支部長　21期生　丸田隆司）

お知らせ

◇日本口腔インプラント学会第47回中部支部学術大会開催

会期・10月31日（土）
11月1日（日）

場所・JPタワー名古屋ホール&カンファレンス（名古屋市）

テーマ・「国民から信頼される専門性のある口腔インプラント治療 ―健康寿命延伸に挑むチーム医療の結束―」

問い合わせ先・
☎0599-25-2539
（大会事務局）
☎052-446-7135
（運営事務局）

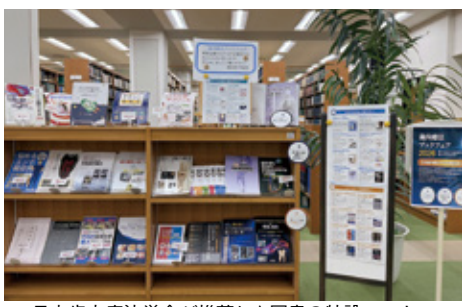
29期生の寺本祐二先生が大会長を務める学術大会で、2日目には4期生の金子　至先生の特別講演や、1期生で本学臨床教授（口腔インプラントセンター）でもある菅井敏郎先生が登壇するシンポジウムなども行われる。

大会ホームページQRコード
（公益社団法人・日本口腔インプラント学会第47回中部支部学術大会）

「歯内療法ブックフェアin図書館」を開催中
臨床医学系の学術書は国民の健康を支える大きな役目

本学図書館で「歯内療法ブックフェアin図書館」が行われている。カウンター前の特設コーナーに、日本歯内療法学会が推薦した歯内療法学に関する図書約30冊を集め、目的や知りたいことに応じて最適な一冊を効率的に選べるようにしている。

歯科保存学講座（歯内）の増田宣子教授が図書館に紹介した、学会作成の推薦図書に関するパンフレットに基づいて「a・レベルを問わない、読みやすいタイプ」「b・歯内療法全般を網羅した総合書タイプ」「c・一部トピックスを抜粋、深掘りタイプ」と三つのタイプに分けて展示した。コーナーには、それぞれの図書について簡潔な紹介文も掲示している。


日本歯内療法学会が推薦した図書の特設コーナー

学会では、「学術書の存在を抜きにして学術の発展はなく、臨床医学系の学術書は国民の健康を支える大きな役目がある」などとして推薦図書を選定した。これを受けて都内の一部の書店ではそれらを一堂に集めて販売するフェアも開催中で、図書館も7月下旬から取り組むことにした。

レベルを問わないタイプaは借りていく学生も目立つという。増田教授は「根管のモヤモヤを解決する糸口になると思うので、ぜひ手に取ってご覧ください」としている。

NEW FACE
歯科衛生士

本年度、あらたに松本歯科大学病院のスタッフに加わった歯科衛生士3人は、それぞれが理想とする歯科衛生士像を胸に日々の業務に精いっぱい取り組んでいます。そんな3人にいまの思いを聞きました。

岡本しずくさん
京都市出身

歯科衛生士さんが歯石を取っている姿を見て「楽しそう、自分もやってみたい」と思ったことをきっかけに関心を持ち、歯科衛生士になりました。早い段階からいろいろな経験を積んでいきたいので松本歯科大学病院に就職しました。所属は地域連携歯科です。

患者さんに「ありがとう」と言われたり頼ってもらったりしたときが、この仕事に就いてよかったと思う瞬間です。働き始めたころと比べれば自分で対応できることが増えてきましたが、もっとスキルアップをしていきたいと思っています。

目標は患者さんにも、同じ職場の歯科医師や歯科衛生士にも「岡本さんなら大丈夫」と信頼してもらえるような歯科衛生士になることです。

土田涼葉さん
塩尻市出身

補綴科に勤務しています。患者さんに何でも安心して相談してもらえて、さらに患者さんにも同じ職場の方々にも信頼してもらえる歯科衛生士になりたいと思っています。

幼いころ歯科医院にお世話になった経験から歯科衛生士の仕事を身近に感じていたこともあって、私も手に職を付け、専門性を持って仕事をしていきたいと考えるようになりました。

ドクターや歯科衛生士の方々に、自分がしたことに対して「ありがとう」と言ってもらえたとき、とてもやりがいを感じます。

まだ不安なこともありますが、専門分野に特化したいくつもの診療科のある病院でしかできない経験を積み、たくさんのやりがいを感じながら働いていきたいです。

西澤　碧さん
千曲市出身

お口の健康は全身の健康につながるということを知り、歯科衛生士になればすべての人の健康を守ることに貢献できるのではないかと考えて、この道に進みました。

所属は矯正歯科です。仕事はまだ慣れないこともありますが、できないことができるようになったときや、患者さんの表情が明るくなって笑顔が見られるようになったとき、歯科衛生士として働く喜びややりがい、また責任を強く感じます。

患者さんに、歯科に関することだけでなくどんなことでも気軽に話しかけてもらえるような、温かくて親しみやすい、そんな雰囲気を自然に出せる歯科衛生士になれるようにがんばっていきます。

9月行事予定

4日(金)～16日(水)　前期定期試験（衛生学院第1学年）
5日(土)　一日体験入学（衛生学院）
6日(日)　一日体験入学（歯学部）
10日(木)～11日(金)　演習Ⅲ（第6学年）
15日(火)～30日(水)　登院試験（衛生学院第2学年）
24日(木)　Ⅲ期試験（第6学年）
大学院発表会
24日(木)～25日(金)　演習Ⅰ（第5学年）
28日(月)～29日(火)　模擬試験（衛生学院第3学年）

受験生の皆さんへ
見せてほしい　君の個性　君の情熱
一日体験入学
① 9月6日(日)　② 10月18日(日)
③ 11月8日(日)　④ 12月13日(日)
※9・10・11・12月開催分のみ掲載
開催時間 9:30～15:00（受付 9:00～）
●キャンパスツアー　●ランチ体験
●模擬実習　●入試説明　●進学相談など
※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学　入試広報係
www.mdu.ac.jp